

資料2-1



EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

# サステナビリティコミュニケーション・ エンゲージメント計画（概要版）（案）

2024年12月時点  
公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、サステナビリティ戦略、実施計画等の内容を踏まえて、サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント（C&E）に関するアクションの実施計画や評価等を記載した「サステナビリティC&E計画」を2025年3月までに策定予定。
- 公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、全国都市緑化フェア等のイベントとの連携、市民参加の活動の推進、アクセシビリティ・ガイドラインの策定等をはじめ、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを様々な対象者に発信。

記載項目	概要
1 はじめに	C&E計画の目的として、様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージを来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを設定
2 実施計画	サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、サステナビリティC&Eに関する目標・アクションと、追加を含めた計25のアクションについて、実施計画を記載。また、実施スケジュールをガントチャートで整理
3 評価	「2 実施計画」に記載したアクションのうち、C&E計画の策定時点で実施したアクションについて、評価等を記載

# 1 はじめに

- **C&E計画の目的**として、様々なメディアでの情報発信等により、**本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージ**を来場者や市民・地域社会等の対象者に発信することを設定。

主な記載項目	概要
目的	様々なメディアでの情報発信と双方向のコミュニケーション等により、 <b>本園芸博のテーマやサステナビリティに関するメッセージ</b> を来場者や市民・地域社会等の対象者に発信
対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実施計画で設定した、以下の<b>9つのステークホルダーから対象者を設定</b> <b>来場者、出展者等、ボランティア、市民・地域社会、NPO・NGO、事業者、有識者等、政府・自治体、協会職員・運営スタッフ等</b></li><li>● AIPHが特に重視する対象者に対しては、以下のようなアクションを実施<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>来場者</b> 公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、公式マスコットキャラクターの活用等</li><li>✓ <b>開催地の市民・国民</b> 開催1000日前イベントの実施、全国都市緑化フェア等のイベントとの連携、市民参加の活動の推進等</li><li>✓ <b>国際的なオーディエンス</b> 公式ウェブサイトやSNS等での情報発信、サステナビリティレポートの策定・AIPH報告等</li></ul></li></ul>
メッセージ	本園芸博の開催を通じ、テーマである「幸せを創る明日の風景」を発信
発信方法	広報活動、プロモーション活動、連携・支援活動、教育活動等により発信
メディア	公式ウェブサイトやSNS等の他、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等のマスメディアと連携して情報発信

## 2 実施計画（アクション一覧）

- サステナビリティ実施計画に記載した目標・アクションのうち、**サステナビリティ C&Eに関する目標・アクション**と、**追加を含めた計25のアクション**を記載。

サステナビリティ実施計画の目標	アクション
会場計画へのユニバーサルデザインの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクセシビリティ・ガイドラインの策定・推進</li> </ul>
海外からの参加者（公式参加者）に向けた情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外からの参加者（公式参加者）への各種規則・ガイドライン等の策定・周知</li> </ul>
サステナビリティレポートの策定・AIPH報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告</li> <li>・ ポストイベント・サステナビリティレポートの策定・AIPH報告</li> <li>・ サステナビリティ及びレガシーレポートの策定・AIPH報告</li> </ul>
(C&E計画の策定に伴う追加的アクション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協会職員への研修の実施</li> <li>・ 公式ウェブサイトでの情報発信</li> <li>・ 公式SNSの活用</li> <li>・ 公式アンバサダーによる機運醸成</li> <li>・ 公式マスコットキャラクターの活用</li> <li>・ 全国都市緑化フェアとの連携</li> <li>・ 浜名湖花博2024（20周年記念事業）との連携</li> <li>・ ガーデンネックレス横浜との連携</li> <li>・ 横浜フラワー&amp;ガーデンフェスティバルとの連携</li> <li>・ 開催1000日前イベントの実施</li> <li>・ 県立横浜瀬谷高等学校等による「フラワーロードプロジェクト」との連携</li> <li>・ 県立農業高校との共創プロジェクト「GREEN LEADERSHIP CLUB」の推進</li> <li>・ ヨコハマ未来創造会議との連携</li> <li>・ 大学共創フォーラムの開催</li> <li>・ 教育プログラム コンセプトブックの活用</li> <li>・ 「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動の推進</li> <li>・ ボランティア等の市民参加の推進</li> <li>・ 公式参加者（国・国際機関）の出展を通じた情報発信</li> <li>・ 花・緑出展を通じた情報発信</li> <li>・ Village出展を通じた情報発信</li> </ul>

## 2 実施計画（アクションの記載項目、ガントチャート）

- 各アクションについて、**実施目的、責任者、方法、メッセージ、主な対象者、対象人数、タイムライン（頻度・時期）**等を記載。
- 各アクションの実実施スケジュールを**ガントチャート**で整理。

主な記載項目	概要
実施目的	アクションの実施目的
責任者	アクションを実施する責任者
方法	アクションの実施方法
メッセージ	アクションを通じて主な対象者に発信するメッセージ
主な対象者	アクションの主な対象者
対象人数	定義した対象者の人数
タイムライン（頻度・時期）	アクションを実施する頻度や時期等のタイムライン

- 「2 実施計画」に記載したアクションのうち、C&E計画の策定時点で**実施したアクション**について、**日程、実施人数、振り返り（良い点、改善点）**の評価を記載。

主な記載項目	概要
日程	アクションを実施した日程
実施人数	アクションを実施した対象人数
振り返り（良い点、改善点）	アクションを実施した振り返り（良い点、改善点）

- C&E計画には、以下のような具体的なアクションを記載。

- 公式ウェブサイトでの情報発信
- 公式マスコットキャラクターの活用
- 「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動
- アクセシビリティ・ガイドラインの策定

## 【事例】 公式ウェブサイトでの情報発信

- 2024年6月に**公式ウェブサイトをリニューアル**。
- **アクセシビリティやユーザビリティに配慮**し、公式ロゴマークのデザインと連動させた、より閲覧しやすいサイトに変更。
- 本園芸博の開催概要や検討状況のほか、事業者等の出展・参加、サステナビリティ等の情報をより充実させ、積極的に発信。



- 「人と地球の自然との、新たな関係を育むコミュニケーター」として、2024年3月に**公式マスコットキャラクター**を発表。
- **名前は一般募集**し、2024年6月に6,076件の中から「**トウクトウク**」に決定。



公式マスコットキャラクター  
「トウクトウク」

## 【事例】 「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使った市民参加の活動



- GREEN×EXPO 2027の機運醸成・市民参加の取り組みとして、市民（個人、団体、教育機関等）の活動で利用できる「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を作成。
- 2024年7月から、「応援メッセージ付き公式ロゴマーク」を使ってGREEN×EXPO 2027を応援する市民活動を募集開始。



**GREEN×EXPO 2027を  
応援しています**

## 【事例】 アクセシビリティ・ガイドラインの策定

- アクセシビリティ・ガイドラインは、協会、出展者をはじめ、博覧会準備に関わる全ての関係団体・事業者が、博覧会に関するアクセシビリティのニーズを理解し、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無等にかかわらず、**本園芸博を訪れる全ての人々が安全・快適に過ごすことができるように配慮した計画・整備を行うための指針。**
- **障がい当事者や学識経験者等の皆様の参画**のもと、検討会を設置し、**2025年3月を目途に「アクセシビリティ・ガイドライン」**を策定予定。
- 検討内容としては、**施設整備、サービス、交通アクセス**のそれぞれの目指すべき水準及びその内容。